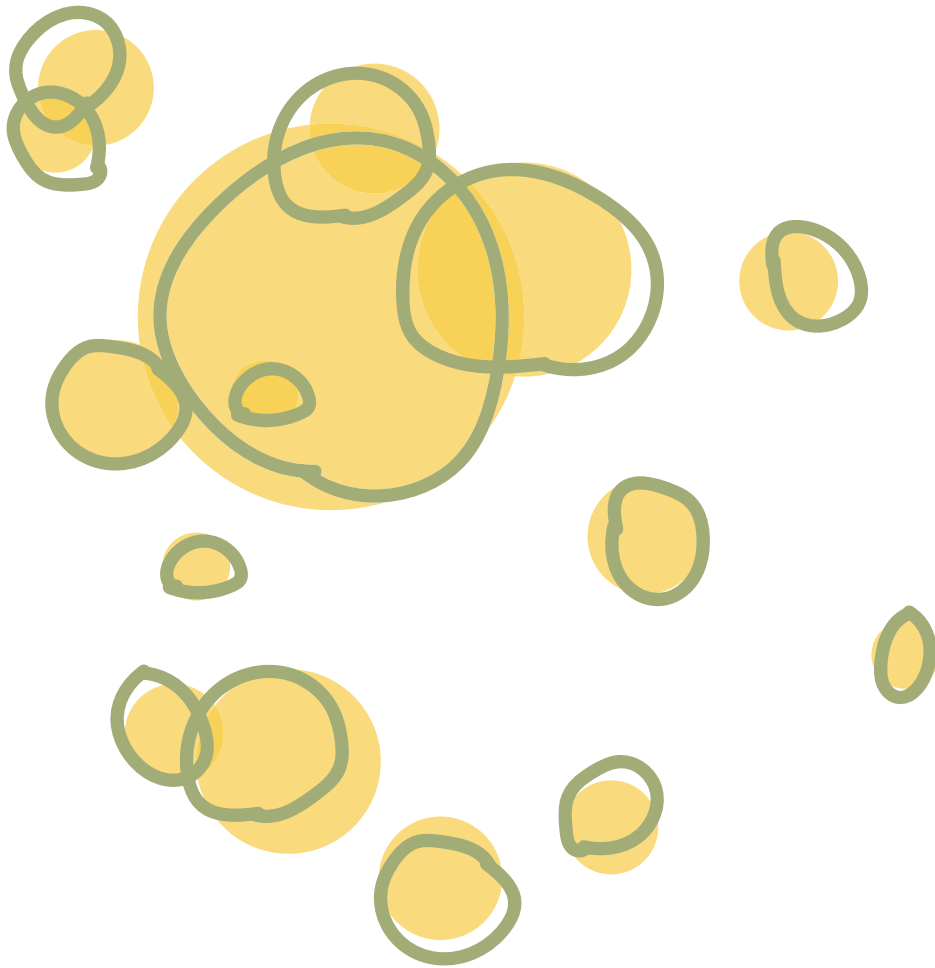


研究会 & ワークショップ 「芸術と医療が交わるところ」



病院の環境は、人間の生きること（生命だけでなく人生や生活）に関わる場として、どうあるべきでしょうか。医療と芸術との交わりによって、病院にどのような場が生まれているのか／生まれると良いのか、これまでの実践例とともに考えたいと思います。また、病院でアートやデザインの取り組みを実践していくためには、どのような仕組みや関係性の構築が必要なのかを議論します。

日時：3月1日(日) 14:00-16:30

場所：筑波大学総合研究棟 D（1 階）+ オンライン

登壇者：稲葉 俊郎・森 合音・貝島 桃代・岩田 祐佳梨

**参加費
無料**



主催：筑波大学芸術系 岩田研究室

協力：筑波大学附属病院 病院のアートを育てる会議、筑波メディカルセンター病院、
NPO 法人チア・アート

問い合わせ：iwatalab.tsukuba[at]gmail.com [at] を@に変えてください

※本会は、JSPS 科研費 JP25K00382 の支援を受けて開催します

こちらの申し込みフォーム
から 2/27（金）17:00 ま
でにお申し込みください。

スケジュール

日時：3月1日(日) 14:00-16:30

(会場 13:40 オープン)

① 登壇者による講演

② 座談会

「芸術と医療が交わる場所に生まれる場とは」

③ ワークショップ

※ワークショップは対面参加者に向けたプログラムです。参加者の皆さんを交えた気づきの共有を行います。

場所・アクセス

住所：茨城県つくば市天王台1丁目1-1

筑波大学総合研究棟D

●お車でお越しの場合

「カスミ筑波大学店」の隣にある駐車場をご利用ください

●公共交通機関でお越しの場合

つくば駅から「筑波大学循環(右回り)／(左回り)」に乗車し、「平砂学生宿舍前」または「筑波大学西」／「天久保池」で降りて徒歩5分

登壇者



稲葉 俊郎：慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授

東京大学医学部附属病院循環器内科助教（2014～2020年）、軽井沢病院（2022～2024年病院長）を経て、2024年より慶應義塾大学大学院 SDM 特任教授。山形ビエンナーレ2020, 2022, 2024 芸術監督。医療と他分野に橋を架ける実践に関わる。医師、医学博士。



森 合音：四国こどもとおとなの医療センター アートディレクター

2013年の開院時より四国こどもとおとなの医療センターにおいてアートディレクターを務める。特定非営利活動法人アーツプロジェクト理事長、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館理事、アートミーツケア学会理事、宝塚大学看護学部客員准教授、丸亀市文化芸術推進審議会副会長。



貝島 桃代：スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授 <オンライン登壇>

筑波大学講師（2000～2009年）、准教授（2009～2022年）を経て、2017年よりスイス連邦工科大学チューリッヒ校教授。2024年よりチア・アート理事長。塚本由晴、玉井洋一と建築設計事務所アトリエ・ワンを主宰し、高齢者や障害者の福祉施設の設計も手がける。



岩田 祐佳梨：筑波大学芸術系 准教授

筑波メディカルセンター病院アート・コーディネーター（2011～2024年）、東京工芸大学工学部建築学科助手（2018～2019年）、筑波大学研究員（2020～2023年）を経て、2024年より筑波大学芸術系准教授。専門は医療・福祉分野のコ・デザイン。博士（デザイン学）。